



日本の代表的ノートパソコン、PC98ノートをつくった工業高校卒業生の話をお聴きしました。

実力で勝つ工業高校!

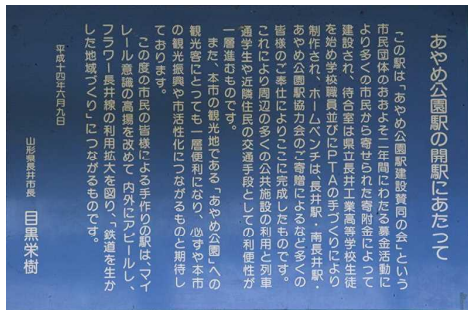


全国の工業高校の校長が一堂に会した講演会で講師を務めたのは山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター長小野寺忠司教授。小野寺教授は山形県立長井工業高等学校の卒業生です。小野寺先生は就職した頃はそれほど意欲的に働いてはいなかったと当時の様子を話されました。ところが、ものづくりの世界は実力主義であり、工業高校の卒業生が大学の卒業生に勝てるチャンスがあることを体験され、仕事への意欲が大きく変わったとそうです。

長井工業高校は経済産業省のモデル地区となった地域にある学校です。以前、訪問したときに伺った話では、廃校予定であったところを地元企業からの要望によって存続している学校とのことでした。その理由は、大手メーカーが撤退することになり、地元の中小企業が自立して存続するためには地元工業高校からの人材供給が欠かせないと判断したからです。

この地域の中小企業はお互いの強みを活かし、協働して仕事を受注することで大手メーカーの下請けから脱却した経営を実現しました。この手法は全国の産業界の注目を集めました。また、強みを活かしてロボット産業にも力を入れ、ロボットのK1大会ROBO-ONEの聖地としても有名になりました。ここでも地元の工業高校の卒業生が活躍しています。

スウィングガールズという映画を見たことがありますか。スウィングジャズの魅力に目覚めた女子高校生たちが活躍するコメディ映画です。列車の中でジャズを演奏するシーンがあります。このロケは長井工業高校の横を走る山形鉄道フラワー長井線で行われました。生徒が利用する最寄りのあやめ公園駅は、長井工業高校の生徒とPTAの要望によって開業した駅です。また、その待合室は長井工業高校の生徒がつくりました。ものづくりに対する地域の念いや工業高校の実践には元気づけられます。



待合室に掲示された駅の説明

小野寺先生は今後あらゆる分野でAIが普及するが、使いこなすためには電気回路、電子回路、マイコンモジュール、センサー、アクチュエーターなどの知識が必要となることから、工業高校で専門知識を学ぶことが今後のAIの活用において優位であると説明されました。頑張れば強い工業高校を再認識した講演でした。

校長 松川 明義



【行事予定】

- 6日(木) : 3年進路説明会
- 10日(月) : 土木担い手事業外部講師授業(建設科土木コース)
- 12日(水) : 人権教育LHR(2・3年)、人権教育講演会(1年)
- 13日(木) : 球技大会

